

令和2年度 財務諸表の概要



愛媛大学

貸借対照表の概要

■ 貸借対照表とは

国立大学法人の財政状態について、決算日（令和3年3月31日）における全ての資産、負債及び純資産を示したものです。

貸借対照表【資産の部】

主な増減理由

(単位：百万円)

	令和元年度	令和2年度	増減額	
土地	30,062	29,980	△ 81	
建物等	28,106	27,961	△ 144	
工具器具備品	5,363	5,594	232	医療機器等の導入による増加
図書	5,174	5,165	△ 9	
ソフトウェア	223	1,929	1,705	病院情報管理システム等のリース開始による増加
現金及び預金	10,548	12,141	1,593	
有価証券・長期性預金	2,912	2,235	△ 677	譲渡性預金の満期による減少
未収附属病院収入	4,670	4,769	100	
その他の未収入金	569	1,112	542	補助金に係る未収入金の増加
その他の資産	813	1,184	371	長期借入金等の複数年事業による建設用前払金等の増加
資産	88,439	92,070	3,631	

※百万円未満四捨五入のため、合計は一致しない場合があります。

【資産の部について】

令和2年度末の資産合計は、前年度比36.3億円増の920.7億円となっています。

主な増加要因

- ・病院情報管理システム等のリース開始によるソフトウェアの増加が17.1億円
- ・補助金に係る未収入金の増加が5.4億円
- ・長期借入金等（複数年事業）の建設用前払金等による其他資産の増加が3.7億円
- ・医療機器等の導入による工具器具備品の増加が2.3億円



貸借対照表の概要

貸借対照表【負債の部】

主な増減理由

(単位：百万円)

	令和元年度	令和2年度	増減額
資産見返負債	13,391	13,419	28
借入金	11,206	10,391	△ 816
運営費交付金債務	1	184	183
寄附金債務	3,651	4,036	385
前受受託研究費等	635	738	103
未払金	6,755	6,583	△ 171
その他の負債	2,307	4,396	2,088
負債：計	37,946	39,746	1,800

繰越額の増加

新型コロナウイルス感染症関連基金の創設等による増加

病院情報管理システム等のリース資産取得等に伴う増加

※百万円未満四捨五入のため、合計は一致しない場合があります。

【負債の部について】

令和2年度末の負債合計は、前年度比18.0億円増の397.5億円となっています。

主な増加要因

- ・リース資産取得等によるその他の負債の増加が20.9億円



貸借対照表【純資産の部】

主な増減理由

(単位：百万円)

	令和元年度	令和2年度	増減額
資本金	36,050	36,050	0
資本剰余金	4,172	4,584	412
前中期目標期間繰越積立金	6,760	6,760	0
目的積立金	1,325	1,289	△ 37
積立金	1,171	1,796	625
当期末処分利益	1,014	1,844	831
純資産：計	50,493	52,324	1,831
負債・純資産	88,439	92,070	3,631

施設費等による資産取得に伴う増加

利益処分による増加

損益計算書の当期総利益と一致します

※百万円未満四捨五入のため、合計は一致しない場合があります。

【純資産の部について】

令和2年度末の純資産合計は、前年度比18.3億円増の523.2億円となっています。

主な増加要因

- ・積立金の増加が6.3億円
- ・施設費等による資産取得に伴う増加が4.1億円



損益計算書の概要

■損益計算書とは

一会計期間における国立大学法人の運営状況を示したものです。業務運営に要した費用、事業の実施や業務の実現に応じて計上する収益を示しています。

損益計算書

主な増減理由

	令和元年度	令和2年度	増減額	
(単位：百万円)				
経常費用				
業務費	43,672	43,489	△ 183	新型コロナウイルス感染症対応等による費用の増加
教育経費	2,088	2,228	140	
研究経費	2,070	1,945	△ 125	旅費交通費の減少
診療経費	15,278	15,340	62	
教育研究支援経費	530	471	△ 59	
受託研究・事業費等	1,450	1,296	△ 154	独立行政法人等からの受託研究の受入の減少
人件費	22,256	22,209	△ 47	
一般管理費	1,206	1,013	△ 192	旅費交通費や移設撤去費等の減少
財務費用等	83	83	0	
経常費用 計：	44,960	44,585	△ 375	
経常収益				
運営費交付金収益	12,269	11,987	△ 283	繰越額の増加による収益の減少
学生納付金収益	5,535	5,508	△ 27	
附属病院収益	22,950	22,031	△ 919	新型コロナウイルス感染症対応による病床稼働率の低下等に伴う減少
受託研究・寄附金等収益	2,625	2,437	△ 187	受託研究の受入の減少
資産見返負債戻入	1,157	1,155	△ 2	
その他収益	1,337	3,173	1,836	補助金の受入額の増加
経常収益 計：	45,874	46,292	418	
経常利益（△経常損失）	914	1,707	793	
臨時損失	11	8	△ 3	
臨時利益	27	12	△ 15	
当期純利益	930	1,711	780	
目的積立金取崩額	83	134	50	
当期総利益（△当期総損失）	1,014	1,844	831	貸借対照表の当期末処分利益と一致します

※百万円未満四捨五入のため、合計は一致しない場合があります。

【経常費用について】

令和2年度の経常費用は、前年度比3.8億円減の445.9億円となっています。

主な減少要因

- ・旅費交通費や移設撤去費等の減少による一般管理費の減少が1.9億円
- ・独立行政法人等からの受託研究の受入の減少による受託研究・事業費等の減少が1.5億円

【経常収益について】

令和2年度の経常収益は、前年度比4.2億円増の462.3億円となっています。

主な増加要因

- ・補助金の受入額の増加が18.4億円

令和2年度の当期総利益は18.4億円となっており、うち現金の裏付けのある利益7.4億円は、文部科学省へ申請のうえ承認されると、令和3年度に目的積立金として使用できます。



キャッシュ・フロー計算書の概要

■キャッシュ・フロー計算書とは

一会計期間における国立大学法人の資金（キャッシュ）の収支状況について、一定の活動区分（業務活動・投資活動・財務活動の3区分）に分類して示したものです。



主な増減理由

補助金の受入額が増加しています。
また、新型コロナウイルス感染症対応による病床稼働率の低下等に伴い、附属病院収入が減少しています。

有価証券が減少し、固定資産の取得による支出は増加しています。

附属病院の施設等の整備事業が複数年事業で継続中（令和3年度完了予定）のため、長期借入金の借入による収入が減少しています。

	(単位：百万円)		
	令和元年度	令和2年度	増減額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	3,668	4,951	1,283
原材料等支出	△ 17,527	△ 17,107	420
人件費支出	△ 22,551	△ 22,584	△ 32
その他の業務支出	△ 834	△ 969	△ 135
運営費交付金収入	12,642	12,465	△ 176
学生納付金収入	5,060	4,972	△ 88
附属病院収入	22,682	21,929	△ 753
受託研究・補助金・寄附金収入	3,262	5,064	1,802
その他収入	826	923	98
預り金の増加（または減少）	109	257	148
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,667	△ 2,683	△ 15
有価証券の取得による支出	△ 17,099	△ 1,224	15,875
有価証券の償還による収入	14,900	1,500	△ 13,400
定期預金等の預入による支出	△ 19,600	△ 20,400	△ 800
定期預金等の払戻による収入	19,700	20,200	500
その他投資による支出	△ 100	△ 300	△ 200
その他投資による収入	100	300	200
有形固定資産等の取得による支出	△ 2,973	△ 4,413	△ 1,440
有形固定資産等の売却による収入	364	6	△ 357
施設費による収入	2,210	1,635	△ 575
その他	△ 169	13	182
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 674	△ 1,276	△ 601
学位授与機構債務負担金の返済支出	△ 598	△ 542	56
長期借入金の借入による収入	1,136	546	△ 590
長期借入金の返済による支出	△ 788	△ 820	△ 32
リース債務等の返済による支出	△ 360	△ 405	△ 45
利息の支払い額	△ 65	△ 55	10
IV 資金増加額（又は減少額）（I + II + III）	327	993	666
V 資金期首残高	5,321	5,648	327
VI 資金期末残高（IV + V）	5,648	6,641	993

※百万円未満四捨五入のため、合計は一致しない場合があります。

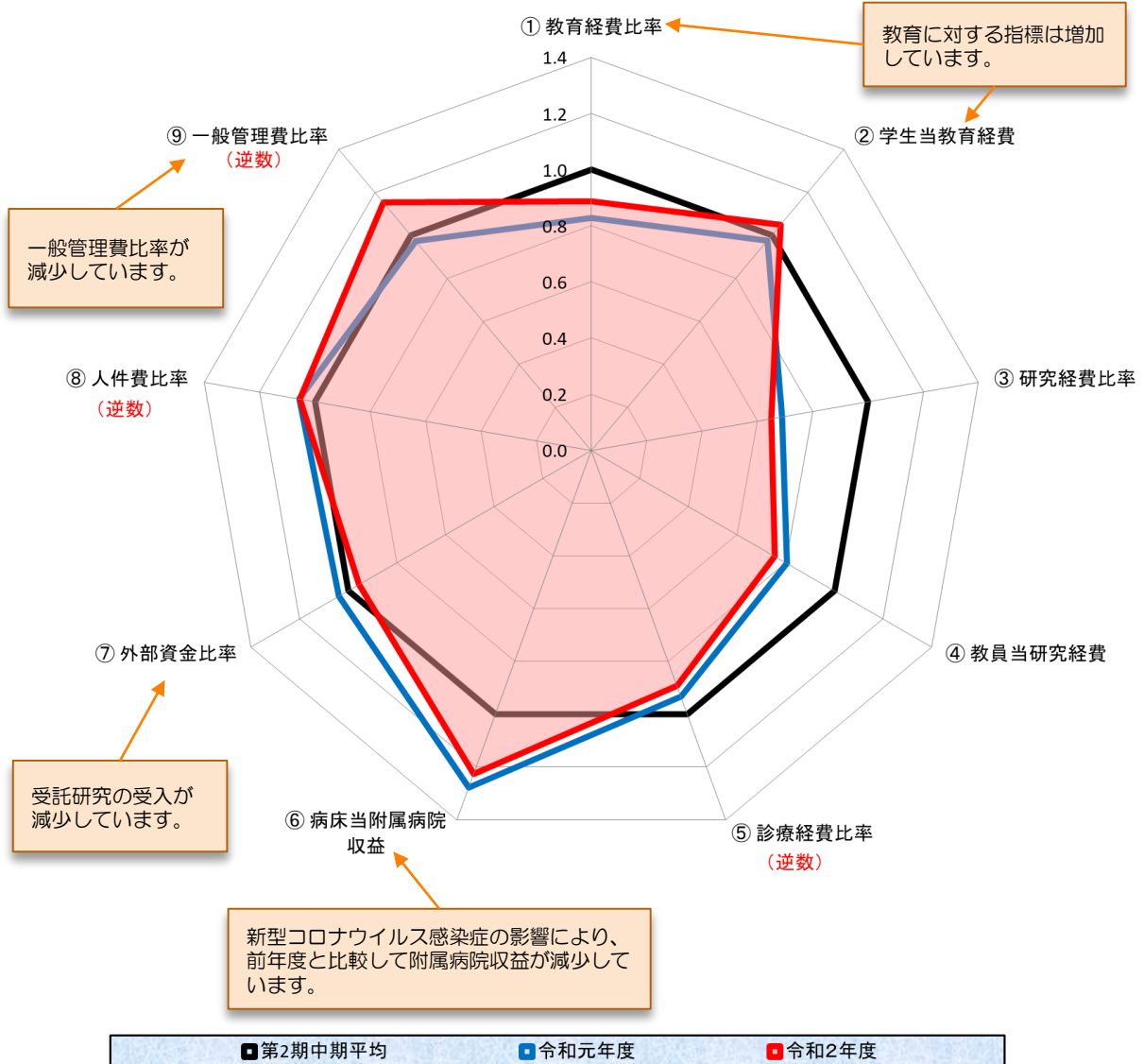
※キャッシュ・フロー計算書の「期末資金残高」には定期預金が含まれないため、貸借対照表の現金及び預金とは一致していません。

財務指標による財務分析について

財務指標による経年比較

本学の第2期中期目標期間の平均を「1」とし、それに対する伸び率を表しています。外側であるほど値が良く、数値が低い方が望ましいものについては逆数を用いて算出しています。

附属病院は、新型コロナウイルス感染症対応による病床稼働率の低下等に伴い、収益が減少しています。



財務指標	判断*1		計算式	R2年度	【参考】 第2期中期期間 平均
教育経費比率	↑	活動性	教育経費比率(%) =教育経費÷業務費×100	5.1%	5.8%
学生当教育経費	↑		学生当教育経費(千円)=教育経費÷学生実員	242千円	230千円
研究経費比率	↑		研究経費比率(%) =研究経費÷業務費×100	4.5%	6.9%
教員当研究経費	↑		教員当研究経費(千円)=研究経費÷教員実員	1,794千円	2,368千円
診療経費比率	↓	収益性	診療経費比率(%) =診療経費÷附属病院収益×100	69.6%	62.1%
病床当附属病院収益	↑	収益性	病床当附属病院収益(千円) =附属病院収益÷病床数	35,194千円	28,683千円
外部資金比率	↑	発展性	外部資金比率(%) =外部資金収益÷経常収益×100	5.3%	5.5%
人件費比率	↓	効率性	人件費比率(%)=人件費÷業務費×100	51.1%	54.0%
一般管理費比率	↓		一般管理費比率(%) =一般管理費÷業務費×100	2.3%	2.7%

*1 ↑高い方が望ましい、↓低い方が望ましい

活動性

教育研究活動が適正な水準で実施されているか

教育経費比率：教育経費が大学の業務費に占める割合であり、大学の業務における教育の比重を判断する指標
 研究経費比率：研究経費が大学の業務費に占める割合であり、大学の業務における研究の比重を判断する指標
 学生当教育経費：学生1人あたりの教育経費であり、大学における教育活動の活発さを判断する指標
 教員当研究経費：教員1人あたりの研究経費であり、大学における研究活動の活発さを判断する指標

効率性

経営が効率的に実施されているか

人件費比率：人件費が大学の業務費に占める割合であり、人件費の削減計画等に基づく効率的な運営がされているかどうかを示す指標
 一般管理費比率：主たる業務とされる教育研究以外の管理運営に係る経費と事業経費との割合であり、効率的な運営がされているかどうかを示す指標

発展性

多様な資金（外部資金）を確保して大学としての財源を安定させているか

外部資金比率：経常収益に対する外部から獲得した収益の比率であり、大学の外部資金による活動状況及び収益状況を判断する指標

収益性

自己収入について、経費に見合う収益確保がなされているか

診療経費比率：附属病院収益に対する診療経費の比率であり、附属病院の収益性を判断する指標
 病床当附属病院収益：病床1床あたりの病院収益であり、附属病院における収益性を判断する指標
 受取利息比率：現金預金、有価証券からどれだけの利息を得ているかを示す指標



【お問い合わせ先】

**国立大学法人愛媛大学
財務部財務企画課決算チーム**

〒790-8577
松山市道後樋又10番13号
TEL : (089) 927-9062
FAX : (089) 927-9068
E-mail : bunseki@stu.ehime-u.ac.jp